

CONTENTS

- ① 患者さんに寄り添う医療を目指して
一検査室に明るく温かい装飾を—
・教えて!この言葉「ジェネリック医薬品」
・3N病棟特別病室の稼働開始について
- ② 退職のご挨拶
・ナディック通信
- ③ 名大病院臨床研修医のご紹介
・令和元年度名大病院災害訓練を実施
・診療科レポート「放射線科」
・特定基金 医学部附属病院支援事業へ
のご協力のお願い
- ④ ボランティアさん募集
・外来棟1階にデジタルサイネージを設置しました
・ミニニュース
・禁煙のお願い
・健康講座「「繰り返す腹痛」の原因は
先天性胆道拡張症かもしれない」
・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

- 基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

特集 TOPICS ① 患者さんに寄り添う医療を目指して
一検査室に明るく温かい装飾を—

名大病院放射線部では、お子さんをはじめ患者さんの不安を少しでも和らげていただけるように、一部の放射線検査室・治療室に海や森などをイメージした装飾を施しました。この装飾プロジェクトに関わった放射線技師やチャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS) の皆さんにお話を伺いました。



装飾プロジェクトメンバーの皆さん

放射線部では最新の医療機器を用いた画像診断や放射線治療を提供しています。しかし、PETやCT、MRIなどの放射線検査設備は構造基準の特性上、検査室に窓はなく、無機質で閉鎖的な空間の中で検査を行っています。そのため、小さなお子さんは怖がり、時にはスタッフからも息が詰まるという声が上がっていました。放射線技師は正確な検査を行うだけでなく、患者さんの気持ちに寄り添った環境づくりにも力を入れる必要があるのではないかと。そんな思いから、小児科のCLSにも協力をいただき、検査室の装飾を始めました。

CLSは、医療現場でお子さんやご家族の心理社会的支援を行う専門職です。お子さんが少しでも安心できるように、お子さんに分かりやすく病気の検査などの説明をしたり、環境を整えたりしています。

子どもにも大人にも愛される
デザインコンセプト

最初は自分たちで検査室に既製品のシールを貼っていましたが、時間が経つとはがれてしまいました。そこで部内に装飾チームを発足させ、装飾プロジェクトを開始。クラウドファンディングのご支援を活用させていただき、一からデザインを検討することになりました。

今回のプロジェクトで最もこだわった点は、デザインコンセプトがお子さんにも親しまれることと同時に、大人の方にも受け入れられるクオリティであること。幅広い年代の患者さんにリラックスして検査を受けていただけるデザインを求め、装飾デザイナーや医療スタッフ、CLSと何度も議論を重ねました。

そして、2019年秋から年末にかけてPET、CT、MRIの3室、さらに放射線治療室の装飾が完成。PET検査室は「海と魚たち」をコンセプトとし、海の中でクジラや魚たちが元気に泳ぐ姿を装飾しました。CT検査室は「森と動物たち」とし、鹿や小鳥、小さな動物たちが描かれています。この2室は、水彩画のようなタッチでグラデーションを施すなど細かな部分にも工夫して、安心感にあふれた優しい雰囲気になっています。MRI検査室と放射線治療室は、リアルに描かれた大空をコンセプトとし、青く澄み渡る青空と広々とした開放的な感覚を生み出す環境構築を行いました。



CT 検査室 「森と動物たち」



PET 検査室 「海と魚たち」



放射線治療室 「空と木々」



MRI 検査室 「空と鳥たち」

装飾の完成後、いつもは検査室に入るだけで泣いていた3歳の女の子が、泣かずに検査を受けることができたり、大人の患者さんからも明るくなったと笑顔をいただいたり、検査室を利用した患者さんからもうれしい反響をいただいています。また、保護者の方からも「病院側の配慮の気持ちが目に見えて伝わってくる」、「何回受けても検査は嫌なもの、それでもがんばる子どもたちのために、もうこわくないと思える空間を作っていただけたことがうれしかった」とのお言葉をいただきました。

また、装飾によってお子さんが落ち着いた気持ちでリラックスして検査ができれば、検査時間が短縮されるほかに、動きのための再撮影による放射線被ばくを抑えることができる、睡眠薬使用のリスクが減らされるなど医学的にも有用性が期待できます。

今回の装飾プロジェクトは、放射線技師とCLSなどの多職種が目標を共にし、連携協力して成し遂げることができました。患者さんのために、「より良い医療」「より優しい医療」を目指すとき、様々な専門性を生かし多職種が連携することの重要性も実感できました。患者さんを応援する検査室は、より優しい医療のシンボルになるものです。こうした装飾の文化が病院全体に浸透し、患者さんに寄り添う医療や患者さんの目線に立ったストレスのない環境づくりが広がれば、と願っています。

お子さんがリラックスできる検査室を

うれしい声を病院全体へ広げたい

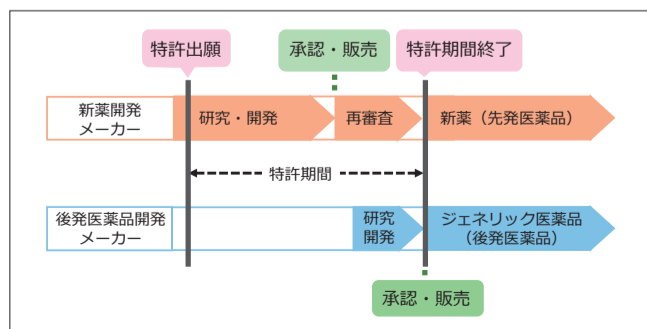
教えて! この言葉

ジェネリック医薬品

薬剤部 副薬剤部長 山本 雅人

ジェネリック医薬品 (後発医薬品) とは、「新薬 (先発医薬品)」の独占的販売期間 (特許期間および有効性・安全性を検証する再審査期間) が終了した後に、厚生労働大臣の承認を得て他の医薬品メーカーから製造・販売される新薬と同じ有効成分の医薬品のことをいいます (図1)。ジェネリック医薬品は、すでに有効性や安全性が確認された有効成分を使って開発されることから、新薬に比べて少ない費用で開発することができ薬の価格が安くなっています。ジェネリック医薬品の効能・効果や用法・用量は新薬と原則的に同じですが、新薬の特許が一部有効である等の理由により、効

能・効果や用法・用量が一部異なっている場合があります。また、製品によっては、新薬より錠剤を小型化する、苦味を抑えるなど形状や味を飲みやすく改良・工夫しているものもあります。ジェネリック医薬品の「ジェネリック (generic)」とは、「一般的な」という意味です。日本より早くからジェネリック医薬品が普及している欧米では、医師が薬を処方する際に商品名ではなく含有されている有効成分の一般名 (成分名) で記載することが多いため、後発医薬品はジェネリック医薬品と呼ばれています。



新薬とジェネリック医薬品

3N病棟特別病室の稼働開始について

令和元年11月より、静かな空間で治療に専念していただけるよう、中央診療棟B棟3階に特別病室3室を開設しました。白を基調とした明るい内装、40㎡と広々とした空間、プライバシーを重視し配置されたバス、トイレ付きの病室となっており、テレビ、冷蔵庫、ソファ、デスク、床頭台、クローゼット等の充実した設備と快適で気持ちよく過ごしていただける空間を確保した特別病室となっています。ぜひご利用ください。



特集 TOPICS 2

退職のご挨拶



整形外科長／リウマチ科長／教授
石黒 直樹



本年3月末で名古屋大学を退任いたします。昭和60年に整形外科医として勤務を開始して以来、途中の留学を除いてほぼ35年間努めさせていただきまして。この間、多くの方々を支えられて職務を全うできた事に感謝しております。この間、名大病院も様変わりをしました。建物の変化は判りやすいのですが、実は内部の機構はもっと劇的に変わっています。この変化に自身少しでも寄与できたことを誇りに思っています。今後も先進的な医療を安全に届けられる病院であり続けることを願っております。

産科婦人科長／教授
吉川 史隆



昭和50年に名古屋大学に入学して以来、45年の長きにわたりお世話になりました。人生の多くを名古屋大学とともに歩んだことになりました。昭和56年に医師になってからは、名古屋掖済会病院、小牧市民病院、西尾市民病院、米国立衛生研究所（NIH）に所属しておりましたが、常に名古屋大学医学部附属病院産科婦人科を本籍としておりました。名大病院を俯瞰してみますと、東海地区の基幹病院として常に患者さんに最良の医療を提供すると共に、この地区の医療体制にも中心的に貢献しています。今後も患者さんの立場に立って、医療を提供してまいりますので、名大病院へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

泌尿器科長／教授
後藤 百万



この度、令和2年3月31日をもって名大病院を退職いたします。平成18年9月1日に泌尿器科長を拝命し、13年7か月の長きにわたり務めさせていただきました。名大病院泌尿器科は、泌尿器科領域の多彩な疾患の診療を行ってまいりましたが、先進治療を積極的に取り入れ、特に腹腔鏡手術、ロボット手術について、日本をリードしてまいりました。泌尿器科スタッフはもとより、病院の職員、そして患者さん、多くの方々のご指導、ご支援をいただき、そのおかげで無事退職することができたものと感謝の念でいっぱいです。

眼科長／教授
寺崎 浩子



昭和63年名大病院に帰局し、超音波白内障手術の当院での確立や、比重の重い液体であるパーフルオロカーボンや極小径の眼科用内視鏡などを用いて、眼球破裂や未熟児網膜症、当時は薬物治療のなかつた加齢黄斑変性の手術、重症糖尿病網膜症や網膜剥離の再手術など、大学病院でなければ担えない治療とチーム医療を確立して、気が付いたら30年余りが過ぎていました。最近では、いち早く極細の27G硝子体手術器具を取り入れ、全国に数台しかない術中網膜断層撮影など、最先端の顕微鏡を導入して手術の質向上に努め、よい視力が保てるような手術を目指してきました。病棟・外来・手術室スタッフ、他科の先生、各病院部門の先生方、全病院あげてのご協力は計り知れません。皆様、長い間本当にありがとうございました。

消化器外科一科長／教授
棚野 正人



今年3月末をもって名古屋大学を退任いたします。1991年、助教として当時の第一外科に着任して以来29年間、それ以前の医員時代（1987-88年）を含めると通算30年以上をこの名大病院で過ごしたことになります。医師、看護師、放射線技師など様々な職種の人々に支えられ、何とか大過なく職務を全うできたことに感謝しております。私は外科医であり、大学病院外科は最後の砦として他の市中病院では出来ない様な高難度手術を行い患者さんを救うことを使命と考え一杯やってきましたつもりです。苦しい事も多々ありましたが、やりがいのある楽しい30年でした。名大病院がますます発展し、我が国を代表する素晴らしい病院であり続けることを願っております。

脳神経外科長／教授
若林 俊彦



明治4年、名古屋県（名古屋藩）は仮病院・仮学校を設立し、これが本学医学部の「創基」とされ、令和3年が創基150周年となります。一方、脳神経外科の歴史は比較的新しく、齋藤眞博士が、大正6年に本学へ赴任し、その後、オーストリア／ウィーン大学にて脳神経外科学を学び、日本の脳神経外科の開拓を進めたのが契機となります。昭和23年には、日本脳神経外科研究会（現在の日本脳神経外科学会）の設立に貢献し、昭和42年、脳神経外科の独立が認可されました。歴代教授の輝ける業績に比べれば、自分自身の活動はなんと小さかったことかと恥じ入るばかりですが、多くの皆様と同じ時代を共に過ごし、共に戦った数々の思い出を胸に、私、若林俊彦は退官いたします。今まで大変お世話になりました。今後とも脳神経外科を何卒よろしくお願い申し上げます。

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



「広場ナディック」では毎月第2火曜日に音楽会を行っています。この会は、もともとパーキンソン病患者さんの身体機能維持を目的として、周りの人たちと交流をはかる場として始まったものです。今年度からはパーキンソン病の方以外にも広く参加していただきたいという思いから歌や楽器の好きな方、誰でも参加出来るようになりました。参加者の皆さんと一緒に、さまざまな曲の歌唱、楽器演奏、身体を動かすことを、行っていますのでぜひご参加ください。

〈場 所〉中央診療棟 A 2階 患者情報センターナディック
 〈開催日時〉毎月2火曜日 14時15分～15時30分
 ※開催日が変更になる場合がありますので、詳しくは院内掲示等でご確認ください。
 〈申し込み〉事前申込不要・参加費無料（定員40名程度 先着順）

特集 TOPICS 3

名大病院臨床研修医のご紹介

名大病院では現在、医科歯科合わせて33名の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは隔回掲載で、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みをご紹介します。

一人前を目指して
日々勉強中!



相良 悠之 (医科研修医)

現在、整形外科で、外来診療や手術に参加させていただき、基本的な診療手技や知識を学んでいます。また、夜は救急外来で患者さんと向き合っています。日々の1症例を大切に、診療に活かせるように励んでいます。

8月に岩手県立宮古病院に1ヶ月間、地域研修に行ってきました。人口数人の村への訪問診療や、大きな病院の無い町の診療所で、医療を経験しました。都会では簡単に出来る検査が、僻地では、医療資源の問題で出来ないことが多々ある事を目の当たりました。その様な場所だからこそ、「患者さんの話をしっかり聞く」「一つ一つの身体所見を細かく取る」などがより大切になると実感しました。現地の先生や地域の方々から教わる事が沢山ありました。

患者さんに寄り添う医療が宮古にはありました。私もその様な医療を心がけ今後の診療に励みたいと思います。

伊藤 大泰 (歯科研修医)

現在私が研修している場所は歯科口腔外科外来です。週2日は初診にて問診をとり、その他の日は助手をしています。

名大病院で研修して良かったことは、多くの先生がいることです。それぞれの先生によって重要なポイントがあり、1つの症例を治療していく中でも、多面的に学ぶことができます。また、研修医である私たちの考え方を否定するのではなく、良し悪し何が足りないかを話し合ってくれます。

知識をたくさん身につけ、患者さんにいろいろな選択肢を与えられるように頑張ります。まだまだ未熟ですが、患者さんに寄り添える医師になれるよう日々頑張りたいと思います。



神田 容 (医科研修医)

私は現在外科系集中治療室で研修しています。担当する患者さんの状態変化や検査結果に常に配慮し、上級医の先生方の指導の下で診療にあたります。研修を通して「答えはいつも患者さん自身の中にある」ことを痛感しました。医師は採血やCTなどの検査結果について気を取られがちですが、時として治療の鍵となるのは、患者さんの訴える些細な症状や患者さんの治療に対する気持ちです。患者さんに寄り添える医師でいられるよう日々精進して参ります。

稲畑 啓一郎 (医科研修医)

現在、私は患者安全推進部で研修を行っております。報告されるインシデントレポートを通じて、名大病院を受診する患者さんの安全がどのように守られているか知り、またどのような改善点があるか模索する日々を送っています。このように一歩引いた所から院内での医療を俯瞰することは、救急外来で自分が診療する上でも、非常に役立っています。これからも精進を続け、患者さんの健康に寄与できるのであれば、これほど嬉しいことはありません。

※医科研修医の診療科は執筆当時

診療科レポート 「放射線科」

放射線科 医局長 石垣 聡子

放射線科は画像診断、核医学、インターベンショナルラジオロジー(IVR)、および放射線治療の四本柱で構成された診療科です。画像診断では、CT、MRIなどの画像診断報告書の作成を行っています。また当院では乳房や甲状腺の超音波検査(US)も行っております。現在の医療は、画像診断なくして成り立ちません。適切な画像診断が医療の質を保證する第一歩であると考えています。核医学と放射線同位元素を用いた診断やがんなどの治療を行う部門であり、RI/PETなどの検査のほか、甲状腺がん術後あるいは甲状腺機能亢進症に対する治療も行っています。IVRでは、血管撮影装置やCT、US

を駆使して皮膚から挿入したカテーテルなどを病巣部まで誘導し、がんや血管にある病変を治療しています。放射線治療は、病変に対し高エネルギーの放射線を照射することによって治療を行っており、IVRとともに侵襲性の低い治療法として注目を集めています。このように一口に放射線科といっても、多岐にわたっており、臓器にとられることなく患者さんを画像という媒体を通して統合的に診療を行っています。また、放射線科は、個々のライフイベントに臨機応変に対応可能であり、女性医師の働きやすい環境づくり・キャリア形成支援にも力を入れています。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



▶ 傷病者の受入救護訓練の様子



▶ 本部訓練の様子

「名古屋市内で震度6強の大規模地震が発生し、停電で自家発電に切り替え、当院に傷病者が続々と来院する」という想定で、令和元年11月27日(水)に医師、看護師、医療技術者、事務職員約200名が参加し、災害訓練を行いました。災害対策本部の設置訓練、本部への安否確認と被害状況の報告訓練、傷病者の受入救護訓練(トリアージ訓練)を実施しました。災害時において病院職員は、招集がかかる条件や院内のどこに災害対策本部が設置されるのかを事前に知っておく必要があります。名大病院では、名古屋市内震度6弱以上で、中央診療棟A3階講堂に災害対策本部が立ち上がりします。傷病者の受入救護訓練では、新設された災害医療エリアの中で、医学部保健学科及び医療系専門学校の学生約80名が模擬患者役として参加し、災害時医療体制を検証しました。南海トラフ地震の発生確率は近年さらに高まっているとされており、当院は災害拠点病院としての機能を継続するため災害訓練は不可欠であり、毎年訓練を重ねることで災害への備えをより充実したものにしていきたいと思います。

令和元年度名大病院災害訓練を実施

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

★ ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
 『名大病院 ボランティア』
 で検索♪



特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。
 URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでも
アクセスできます!



外来棟1階にデジタルサイネージを設置しました

特集 TOPICS 4

令和2年3月から、外来棟1階正面玄関前にデジタルサイネージを設置しました。今後、名大病院の総合案内板として、様々な情報を発信いたしますので、ぜひご活用ください。

コンテンツ配置図

このデジタルサイネージには、外来棟フロアマップ、院内の建物の各階案内図、周辺地図があらかじめ表示されており、タッチパネルでの操作により、以下のご案内が表示されます。



- ① 病院情報（休診日、諸行事等）、ニュース天気、予報
- ② タッチパネルコンテンツ
- ③ 周辺地図
- ④ 周辺施設等の紹介
- ⑤ 外来棟フロアマップ
- ⑥ 全館各建物別案内
- ⑦ パンフレット、チラシラック

〈タッチパネルではこんなことが調べられます!!〉

タッチパネル TOP ページ



画面下にあるボタンをタッチすると知りたい情報がご覧になれます。

外来ドクター



タッチをすると各階の診療科毎、曜日毎の外来担当医師を確認できます。

診療従事者



あいうえお順に並んでいる診療科をタッチすると、各診療科の診療従事者が確認できます。

JR 時刻表



平日 8:00 から 21:00 までの名古屋方面、多治見・中津川方面の時刻表が確認できます。

バス時刻表



名大病院周辺のバス停の時刻表が確認でき、バス乗り場 MAP をタッチするとバス停までの地図がご覧になれます。

健康講座

「繰り返す腹痛」の原因は先天性胆道拡張症かもしれない

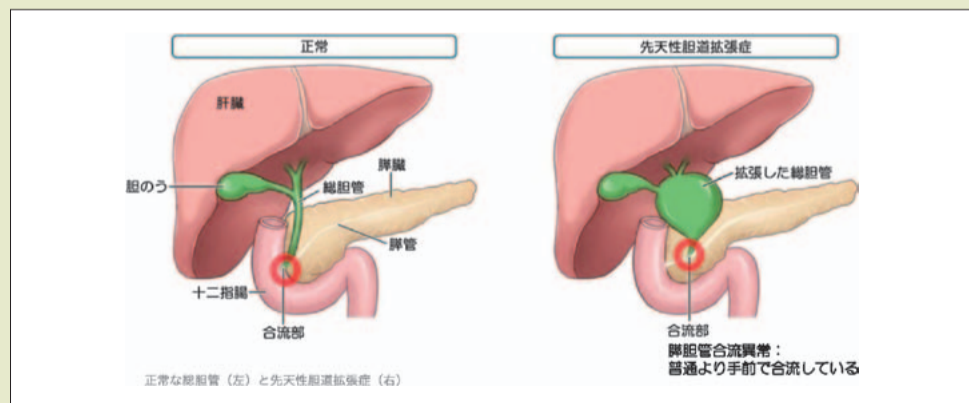
小児外科 外来医長 城田 千代栄

先天性胆道拡張症という病気をご存知でしょうか？

生まれつき肝臓と十二指腸の間にある胆管が拡張している病気です。子どもの頃に見つかることが多い病気ですが、長年気づかれず大人になってから発見されることもあります。原因不明の腹痛や吐き気を繰り返して起こす場合には、この病気かもしれません。

先天性胆道拡張症は、膵・胆管合流異常という形態異常を伴う病気です。この形態異常により、膵液と胆汁が混ざってしまい「タンパク栓」と呼ばれる結晶が作られま

す。「タンパク栓」が膵管や胆管の通り道を塞ぐことで、腹痛や肝機能異常、高アマラーゼ血症などを引き起こします。「タンパク栓」が自然排出されてすぐに症状がよくなる方もあり、受診されないまま長期間見過ごされることがあります。この病気は悪性腫瘍を生じることが知られており、早めに発見し、根治術を行うことが重要です。「繰り返す腹痛」と肝機能異常や高アマラーゼ血症が認められた場合には、先天性胆道拡張症の可能性を考えて、超音波検査などを行うことをおすすめします。



※ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/pedsurg/Dis.html> (名古屋大学大学院医学系研究科小児外科学 HP) で、小児外科で扱う疾患について解説しておりますので、ご参考ください。



「院内コンサート」を開催しました
中央診療棟 A 2 階ピアノ広場にて、1 月 30 日(木)に「エアリー、歌音(かのん) & 仲間たち」の方々による「2020 新春コンサート」を開催しました。ピアノ、エレクトーン、歌により馴染みのある曲を多く演奏していただき、曲に合わせて手拍子をしたり一緒に歌ったりと、楽しいひとときを過ごしました。

■ お詫びと訂正

かわらばん 114 号に掲載しました記事「小さな体に寄り添い守る。最前線で闘う小児医療の現場に光を」クラウドファンディングプロジェクト目標金額達成のご報告」におきまして、掲載しました 1 万円以上のご寄附をいただいた皆様のお名前の一覧につきまして、「ひろせ整体様」が漏れておりましたので、訂正させていただきます。ご迷惑をおかけした皆様には深くお詫び申し上げます。



■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

